

| 科目名 | 成人急性期看護学特論 Theories of Acute Care Adult Nursing | | 担当教員 (研究室番号) | 玉田 章 (307) 脇坂 浩 (306) | | 教員への連絡方法 (メールアドレス) | 玉田:akira.tamada@mcn.ac.jp 脇坂:hiroshi.wakisaka@mcn.ac.jp | | | | | | |
|--|--|--|-----------------|--------------------------|--|-----------------------|--|-------|-----------|----------|------|------------|---|
| 履修 年次 | 1年次 前期 | 科目 区分 | 共通科目Ⅱ | | 選択 区分 | 領域 必修 | 単位数 (時間) | 2(30) | | 授業 形態 | 講義 | 科目等 履修生 | 否 |
| | | | | | | | | | | | 遠隔授業 | 否 | |
| 科目 目的 | 急性期疾患に特徴的な病態生理および危機的状況にある患者を理解するために、成人期の人々の心身の特徴を総合的に教授する。 | | | | | | | | | | | | |
| ディ プロ マ・ポ リ ン グ (DP) | 主要なDP | 1. 多様化・複雑化・高度化する看護ニーズを的確に捉え、看護の特定領域における高度な看護実践能力や総合的な調整能力を身につけている。 | | | | | | | | | | | |
| | 関連するDP | 7. 看護学の特定分野における卓越した看護実践能力を修得している。 | | | | | | | | | | | |
| 到達 目標 | 1. 生命の危機的状況にある患者の看護に用いられる看護理論や概念モデルを理解できる。 2. 循環器、呼吸器、脳神経系疾患により生命の危機的状況にある患者の特徴を理解できる。 3. 生命の危機的状況にある患者に対する感染管理の基本的内容を理解できる。 4. 生命の危機的状況にある患者の医療における倫理的な課題に対する自己の考えをまとめることができる。 | | | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法 (基準) | レポート(50点)、プレゼンテーション(50点) | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | 特に指定しない。 | | | | | | | | | | | | |
| 参考書等 | 必要時に紹介する。 | | | | | | | | | | | | |
| 受講者への メッセージ | 講義と課題を組み合わせ成人においての急性期看護学を学習します。これまでの看護経験を授業中に述べてもらい、自らの看護を振り返る場にもします。 | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 課題については、説明資料として作成し提出すること。これをレポートとして評価する。 | | | | | | | | | | | | |
| 回 | 学習項目 | | | | 学習内容 | | | | 主担当 教員 | 授業 方法 | | | |
| 1回 | オリエンテーション 急性期の定義と患者の特徴 | | | | 急性期の定義および急性期看護とはどのようなものか、また急性期患者の特徴を再確認する。 | | | | 玉田 | 講義 | | | |
| 2回 | 危機的状態にある患者と家族の特徴 | | | | 生命の危機的状況にある患者への危機介入の方法および患者家族の特徴と看護援助の必要性と方法について学ぶ。 (次回課題：ストレス・コーピング理論とその活用例) | | | | 玉田 | 講義 | | | |
| 3回 | 急性期看護に用いられる理論① ストレス・コーピング理論 | | | | ストレス・コーピング理論とは何か、また、急性期看護においてストレス・コーピング理論を用いた実践例を通じて、その活用方法を学ぶ。 (次回課題：危機理論や危機モデルとその活用例) | | | | 玉田 | 演習 | | | |
| 4回 | 急性期看護に用いられる理論② 危機理論や危機モデル① | | | | フィンク、コーンの危機モデルとはどのようなものか学び、これら危機モデルを用いた実践例を検討することにより、その活用方法を学ぶ。 | | | | 玉田 | 演習 | | | |
| 5回 | 危機理論や危機モデル② | | | | アギレラの危機モデルとはどのようなものか学び、これら危機モデルを用いた実践例を検討することにより、その活用方法を学ぶ。 (次回課題：ケアリング理論と活用例) | | | | 玉田 | 演習 | | | |
| 6回 | 急性期看護に用いられる理論③ ケアリング | | | | ケアリング理論を用いた実践例を通じて、その活用方法を学ぶ。 | | | | 玉田 | 演習 | | | |
| 7回 | 循環機能が障害された患者の看護 心疾患患者の特徴と看護 | | | | 心臓に障害がある患者の特徴と看護について概説する。 | | | | 玉田 | 講義 | | | |
| 8回 | 呼吸機能が障害された患者の看護 呼吸器疾患患者の特徴と看護 | | | | 呼吸器系に障害がある患者の特徴と看護について概説する。 | | | | 玉田 | 講義 | | | |
| 9回 | 脳・脊髄神経系が障害された患者の看護 脳卒中患者の特徴と看護 | | | | 危機的な状態にある脳卒中患者の特徴と看護について概説する。 | | | | 玉田 | 講義 | | | |
| 10回 | 危機的状況にある患者の感染管理対策① 重症患者の感染看護 | | | | 重症患者の感染管理対策および感染看護について概説する。 | | | | 脇坂 | 講義 | | | |
| 11回 | 危機的状況にある患者の感染管理対策② ICUにおける感染看護管理 | | | | ICUにおける感染対策および感染看護管理の方法について概説する。 (次回課題：手術患者に対する各種疼痛管理方法とその看護) | | | | 脇坂 | 講義 | | | |
| 12回 | 急性期医療における疼痛管理と看護① | | | | 課題とした術後患者への各種の疼痛管理の方法とその看護について発表し、疼痛援助のあり方について考察する。 (次回課題：心筋梗塞患者に対する疼痛管理方法とその看護) | | | | 玉田 | 演習 | | | |
| 13回 | 急性期医療における疼痛管理と看護② | | | | 課題とした心筋梗塞患者の疼痛管理の方法とその看護について発表し、疼痛援助のあり方について考察する。 (次回課題：救急医療、重症・危篤患者の医療での倫理的問題) | | | | 玉田 | 演習 | | | |
| 14回 | 急性期医療における倫理的問題① | | | | 救急医療、重症・危篤患者の医療での倫理的問題について発表し、急性期あるいは重症・危篤患者に対する医療・看護のあり方について考察する。 | | | | 玉田 | 演習 | | | |
| 15回 | 急性期医療における倫理的問題② | | | | 救急医療、重症・危篤患者の医療での倫理的問題について発表し、急性期あるいは重症・危篤患者に対する医療・看護のあり方について考察する。 | | | | 玉田 | 演習 | | | |